

---

# ある日ある晴れた朝

とし

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ある日ある晴れた朝

### 【コード】

N9058B

### 【作者名】

とし

### 【あらすじ】

何気無く生きてる日々。だけど今日は違った

## プロローグ

今日は朝から雨がふってる。こんな日は気分が鬱だ。  
いつものようにパンと牛乳の朝食を食べ、顔を洗う。時計は8時13分と表示している

いつものように学ランのボタンを一つ開けて、ワックスで髪を整える。

今日は完璧！母さんはそんなオレを呆れたように見てた。

家を出た。その頃には雨はすっかりやんでた。

まだ曇り空だけど。僕は高2になった。はっきりいって今のクラスはつまんない。

高校が見えてきた

はっきりいってめんど

くさい。

下駄箱ではバカみたいに通りすぎるやつをにらんでくる他クラスの男子がいた。

うぜえ……。だけど僕にはそんな勇氣はない。

教室についた。僕はな

んだかんだいっても中学の時よりは楽しい学校生活を送っている。

いつものように変わりばいのない授業を受ける。友達と話す。

部活をやめたばかりの僕は家に帰ろうとすると、親友の田代に話しかけられた。

「リョツペ明日暇？みんなでテニスすることになったんだけど」

「せっかくの休日なのに？」

「ならいいよ！」

「うそだって！誰来んの？」

「あとは孝と女の子3人！」

孝も僕とは仲がいい。いいメンバーだ。

「女の子って誰よ？」

「それは秘密」

僕はイラッとした。

帰りは田代と楽しく帰った。

代わり映えはないけどたまにイベントが起きる僕の世界。

こういうのを幸せっていうんじゃないのかな？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9058b/>

---

ある日ある晴れた朝

2011年10月3日22時27分発行